

羅 針 盤			方 策	平成30年度 第1回 点検・評価			平成30年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な学習の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。</li> <li>意識的な言語活動を積極的に取り入れるとともに、授業アンケートによってその効果を検証する。また、効果的な言語活動や学び合い等について校内研修を行う。</li> <li>授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。</li> <li>不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力、社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。</li> <li>各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。</li> <li>英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。</li> <li>生徒の習熟度や諸事情に応じた個別の指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。</li> <li>漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。</li> <li>国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。</li> <li>生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。</li> <li>生徒のよい変化に特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかせるよう支援する。</li> <li>SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。</li> <li>個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。</li> <li>家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。</li> <li>LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。</li> <li>進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。</li> <li>外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。</li> <li>年2回以上の保護者面談と進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。</li> <li>個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。</li> <li>雇用主と連携して、協力関係を保つ。</li> <li>3学期に職員が分担して各中学校を回り、本校定時制のよさをアピールする。</li> <li>「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。</li> <li>開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。</li> </ul>	B	C	○複数のコース設定が生徒の興味・関心等にマッチし、自主的な取り組みにつながっている。今後は発表やディベートなどをする活動を取り入れていく。	C	C	○生徒が興味あるテーマを設定するとともに、レポートの作成や発表等の実施を目指して成果を目に見える形にすることで、主体的に取り組めるよう工夫する。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が80%以上いる。		D	B	○定時制における生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作出すことに難しさがあるが、教員を含めた話し合いや教材における作者との対話もまた学び合いであり、まずはできることから学び合いの形を追求していくべく、研修・話し合い・教材研究などを重ねる。	B	A	○学習の進め方を工夫することで、生徒の言語活動や学び合いが徐々に活発になってきた。今後も生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるよう、さらに工夫し、学び合いや教師との対話を重視して授業改善を実施していく。
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。		B	B	○生徒に応じた声掛けなど、今後もきめ細かな指導を行う。また、生徒が学年を超えてコミュニケーションを行えるよう、学校行事や部活動を支援していく。	A	B	○生徒への適切な声かけを行うとともに、生徒同士がコミュニケーションを行えるよう学校行事を行うなど支援を進めていく。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育んでいますか。	④ 不登校から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が80%以上いる。		B	B	○登校しやすい環境、個に応じた指導を心がけ、これまでの人生で足りなかった部分を補えるよう指導する。	B	B	○教育相談的な対応も重視しながら、生徒への声かけをして行って居場所作りを心がけるとともに、学び直しも含め、基本的な学習内容を定着できるよう指導を行う。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 西毛地区体育大会やその他の大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。</li> <li>英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。</li> <li>生徒の習熟度や諸事情に応じた個別の指導を心掛け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を図る。</li> <li>漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。</li> <li>国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。</li> </ul>	D	/	○生徒の状況によって部活動の参加状況は変動するが、活動する意欲のある生徒を支援する。また、各種検定を受けられる環境は常に整えておき、受検を呼びかける。	C	/	○西毛地区体育大会を学校行事に位置づけ、他の定時制高校の生徒との交流を働きかける。また、他の大会の参加や各種検定の受検に対して積極的に呼びかけ、支援をしていく。
		⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上いる。		C	C	○定期的に授業改善に向けた会議を開き、生徒個人個人の特性に配慮した、個別指導・対話的学習などの積極的な導入に向け努力していく。	C	C	○学び合いの進め方や実施時の各生徒の様子等を職員間で共有し、生徒の理解度を高めて達成感を高める。また、生徒をこまめに褒めて自信を持たせていく。また、学習の苦手な生徒や得意な生徒に対し、基礎的・発展的な内容を含む授業プリント等の工夫を継続する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率8割以上の生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。</li> <li>生徒のよい変化に特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかせるよう支援する。</li> <li>SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。</li> <li>個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。</li> <li>家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。</li> <li>LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。</li> <li>進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。</li> <li>外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。</li> <li>年2回以上の保護者面談と進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。</li> <li>個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。</li> <li>雇用主と連携して、協力関係を保つ。</li> </ul>	C	/	○補助教材により漢字に対する興味・関心を高め、漢字テスト上位者を全校集会で表彰して漢字学習への意欲を喚起する。	D	/	○難易度を上げると難しい。新聞を読む学習を取り入れ、日頃から漢字に対する意識を高める工夫をし、漢字学習に対する前向きな姿勢を育成する。
		⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。		A	/	○生徒の状況をよく観察し、変化があれば職員間で共有する。さらに、生徒の問題を一人で抱えず、全職員で共有し、組織的に指導に当たる。	A	/	○各教科の授業等でも気になることは積極的に情報交換し、情報の共有を図っていく。その上で、生徒の指導に対して、共通認識をもち、組織的に指導に当たる。
	⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。	B		/	○学校生活を細かく観察し、気になったら職員間で共有してきめ細やかな指導を行う。また、迅速に対応する。もし、いじめに発展してしまった場合は、基本方針に従い適切に対応する。	B	/	○SNS上や見えない部分でいじめが発生することもあるので、生徒にいつでも相談できることを認識させ、相談しやすくする。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。</li> <li>家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。</li> <li>LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。</li> <li>進路に関する最新情報を入手し、提供できるようにしておく。</li> <li>外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。</li> <li>年2回以上の保護者面談と進路講演会を通じて進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。</li> <li>個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。</li> <li>雇用主と連携して、協力関係を保つ。</li> </ul>	A	/	○欠席率は7月時点で2.0%、遅刻率は3.2%と少ない。仕事との両立を支えるため、個々の生活状況について把握し、必要なアドバイスをを行う。	A	/	○家庭との連絡を密に取り、体調の管理等、連携して生徒の指導に当たる。また、アルバイトとの両立等、積極的にアドバイスをを行う。
		⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。		B	/	○LHRや授業前後の時間を使い、大学見学の勧めや就職についての具体的な手順等について個別に対応する。	B	/	○大学、専門学校、それぞれについて学校説明会を実施し、生徒にとって有益な情報を得ることができた。今後も継続していきたい。また、LHRでも学年ごとで生徒の進路意識高揚を図るための機会を設けるようにしていく。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。</li> <li>雇用主と連携して、協力関係を保つ。</li> <li>3学期に職員が分担して各中学校を回り、本校定時制のよさをアピールする。</li> <li>「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。</li> <li>開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。</li> </ul>	B	B	○必要に応じて詳しく説明を受けた。	C	B	○保護者面談を通じて卒業生の進路状況を説明し、関心をもってもらう。また、進路に関する具体的な手順等がわかる資料を作成し、生徒の卒業後のイメージをもってもらうよう工夫する。
		⑬ 在校生の就業率が50%以上である。(アルバイトを含む)		C	/	○生徒の就労状況などを定期的に確認し、学業と両立できるように必要に応じて助言を行う。	B	/	○卒業生の進路の情報を提供し、卒業後の進路への意識を高めていきたい。また、対人関係が苦手な生徒もいるので、生徒の適性に応じてアドバイスをしていく。
	⑭ 職員が本校周辺の中学校を訪問して、学校説明、案内等を年1回以上行う。	未		/	○在籍生徒の学校での様子を伝えることで、本校定時制についての理解を得る。	未	/	○2月に市外も含めて実施予定。在学生の様子や、進路状況を話すことで、本校の様子を理解してもらう。	
12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	⑯ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。</li> <li>雇用主と連携して、協力関係を保つ。</li> <li>3学期に職員が分担して各中学校を回り、本校定時制のよさをアピールする。</li> <li>「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。</li> <li>開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。</li> </ul>	未	/	○必要に応じて職場へ訪問し、生徒に関する支援関係を構築する。	(D)	/	○年度内でもまだ継続して発行予定。学校の様子が伝わるよう、生徒を主体とした紙面構成やホームページへの掲載を継続し、本校の魅力を発信していく。
		⑰ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。		B	/	○藤岡警察署と連携して防犯教室、情報モラル教室、交通安全教室を実施した。さらに、生徒の今後の生活に役立つよう開校記念講演等を行う予定である。	A	/	○地域の方々の協力で有意義な講演会を実施できた。今後も協力をいただき、生徒が身近に感じてもらえるような講演を計画していきたい。

